

平成24年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

研究代表者 所属	産業技術大学院大学 産業技術研究科	フリガナ 研究代表者氏名	カワタ セイイチ 川田誠一	職	研究科長・教授
研究分担者所 属	産業技術研究科創造技術専攻	研究分担者氏名	村越 英樹	職	教授

研究課題名	産業技術大学院大学と産業技術高等専門学校との接続など教育の複線化に関する調査研究
研究実績の概要（600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。）	
<p>産業技術大学院大学は、専門的知識と体系化された技術ノウハウを活用して、新たな価値を創造し、産業の活性化に資する意欲と能力を持つ高度専門技術者の育成を目的として産業技術研究科を運営してきたところである。東京都が設置する公立大学として、本学には次の3つのミッションが求められている。</p> <p>(1) 東京の産業振興に資する高度専門職人材（プロフェッショナル）の育成 (2) 高等専門学校と連携した9年間一貫教育・複線型教育システムの実現 (3) 産業振興にかかわるシンクタンク機能</p> <p>この中で、高等専門学校と連携した9年間一貫教育・複線型教育システムの実現については、ものづくり産業を担う多様なレベルの人材を輩出するため、都立産業技術高等専門学校との連携により、9年間一貫教育・複線型教育システムの基盤を整えてきた。</p> <p>本調査研究では、産業技術高等専門学校との接続など高専と専門職大学院を視野に入れた教育の複線化を考えるうえで、日本の工業高等専門学校の標準的な教育カリキュラムの調査を実施し、調査結果を分析することで、産業技術大学院大学の二つの専攻との接続の在り方を検討する。</p> <p>調査対象分野は、機械工学、電気工学、電子工学、情報工学である。</p> <p>主たる調査結果 機械工学の教科 34校を調査し、実習、実験、講義などについてシラバスなどを元に調査結果を表に取りまとめた。 また、ブルームの教育分類に基づいた認知領域、 電気工学・電子工学： 25校28学科を調査し。実習、実験、講義などについてシラバスなどを元に調査結果を表に取りまとめた。 情報工学： 12校12学科を調査し、実習、実験、講義などについてシラバスなどを元に調査結果を表に取りまとめた。 調査結果から、高等専門学校が職業教育を教育カリキュラムに取り入れた高等教育機関でありながら、実態としては、一般の大学の工学部への接続を重視したカリキュラムとして設計されていることがわかった。 この事実を踏まえた専門職大学院との接続について今後検討を深めたい。</p>	
学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）	
本研究は本学の学術的な内部資料として取りまとめたので、調査が終了する年度末までに学会発表などは行っていない。	
論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）	
本学の学術的な内部資料を作成するのが主たる目的である。	

平成24年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

科学研究費補助金への応募状況、採択状況					
本学の学術的な内部資料を作成するのが主たる目的である。					
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況					
本学の学術的な内部資料を作成するのが主たる目的である。					
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]					
本学の学術的な内部資料を作成するのが主たる目的である。					
研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日